「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

第6章

CO_2 削減ポテンシャル診断結果報告書の作成

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

6.1　CO_2 削減ポテンシャル診断結果報告書とは

CO_2 削減ポテンシャル診断結果報告書は、環境省「CO_2 削減ポテンシャル診断推進事業」において、登録診断機関が行なう診断の結果をまとめる報告書である。統一様式が環境省より提供されている。

CO_2 削減ポテンシャル診断結果報告書（以下、「診断結果報告書」という）は、環境省「CO_2 削減ポテンシャル診断推進事業」（以下、「環境省診断事業」という）において、CO_2 削減ポテンシャル診断補助金を申請した事業所に対して登録診断機関が行なう診断の結果をまとめる報告書である。

診断結果報告書の統一様式が環境省より提供されており、受診事業者が読み進めやすいこと、現状と課題、改善のための対策を分かりやすく示すことなどを考慮して、次表のような構成となっている。

表 6.1.1 診断結果報告書の構成

章番号と名称	内容
0. 表紙	事業所の名称と業種、診断機関の名称を示す。
1. 診断結果の総括	診断結果報告書全体の概要を 2 ページにまとめて示す。
2. 事業所の現状	エネルギーフローや、エネルギー使用状況、CO_2 排出状況など、事業所の現状について図等を用いて示す。
3. 現状の課題と CO_2 削減ポテンシャル	現状把握により見えてきた課題と、その課題を解決する対策を提示する。各対策には CO_2 削減ポテンシャル、投資回収年数、補助制度の有無、診断機関による推奨の有無等の情報を示す。
4. 診断結果報告会議事録	診断機関は受診事業者に対して診断結果を報告し、その際に確認した対策に対する実施判断を記録する。
5. 事業所・診断機関情報、診断実施の記録	事業所および診断機関の詳細情報と診断活動日を記録する。
添付資料 A. 計測状況	現状把握のために行なった計測の情報を記録する。
添付資料 B. 対策個票	提案した対策の詳細や CO_2 削減効果の算出根拠等を示す。
資料 C. エネルギー管理状況、CO_2 排出削減の取組状況	事業所の現状を把握するため、エネルギー管理状況や CO_2 排出削減の取り組み状況を記録する。

ノート

診断結果報告書の様式は改訂や修正が行なわれることがある。

本章の説明には 2019 年度に使用予定の様式を使用している。

診断には最新の様式を使用すること。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

6.2 診断結果報告書の作成手順

「2.2 診断のステップ」にしたがって実施した診断を診断結果報告書の様式にまとめる。診断のステップとの関係性を考慮することで、診断結果報告書を効率的に作成することができる。

2.2 節で説明した診断のステップと診断結果報告書の構成は下図のとおり対応する。

診断の各ステップで得られた情報を診断結果報告書の対応する箇所に記載していくことにより、診断結果報告書が完成する。例えば「Step2：現状の把握」で集めた情報は診断結果報告書「2.事業所の現状」と「添付資料 C. エネルギー管理状況、CO_2 排出削減の取組状況」に記載する。

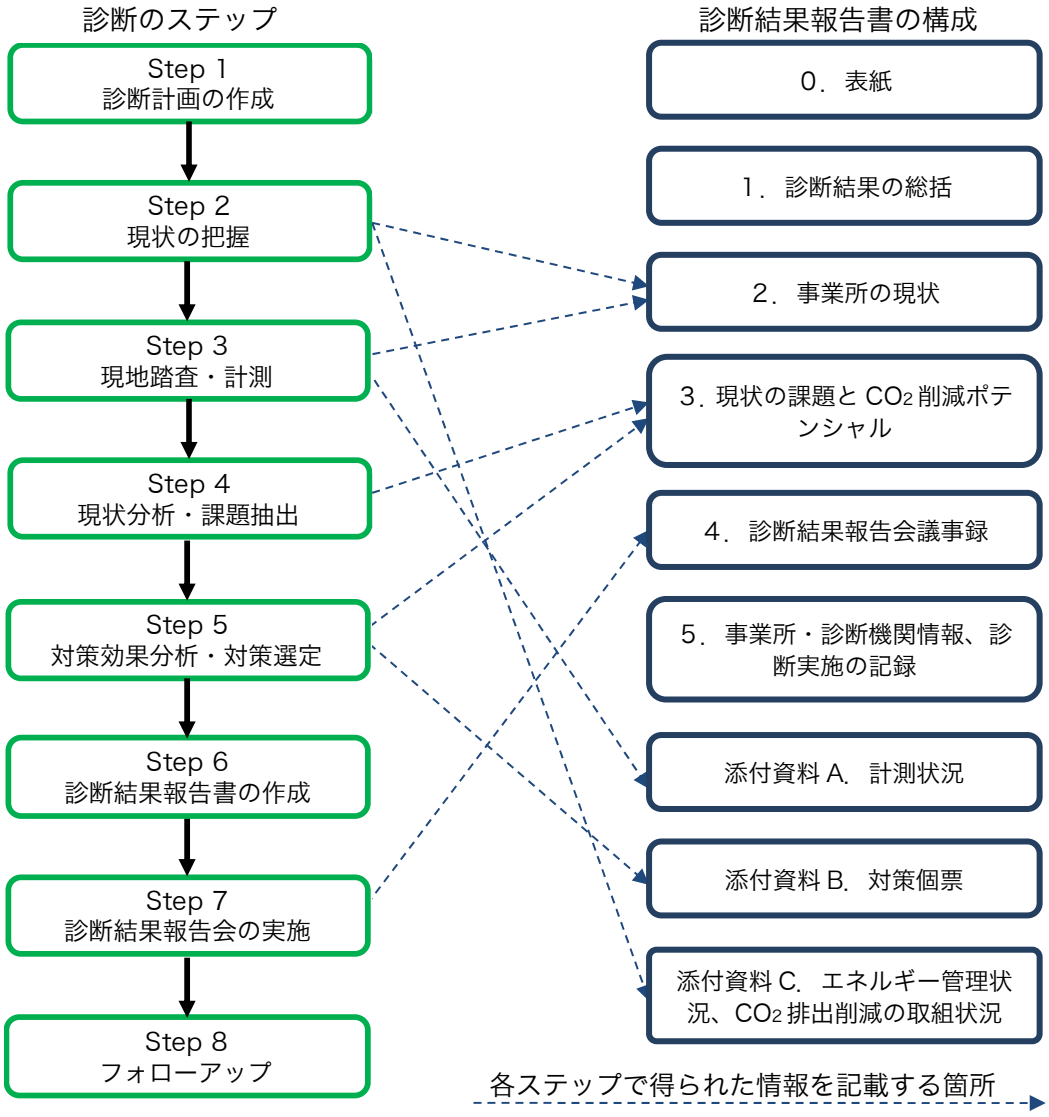


図 6.2.1 診断ステップと診断結果報告書の構成

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

診断結果報告書の様式は、エクセル形式で提供されている。章または節ごとにシートが別れており、あるシートで入力したデータが他のシートに反映される、といった計算式が組まれている。そのため、診断ステップとの関連性も考慮し、次図の手順でシート入力を進めると効率的に診断結果報告書を作成できる。

手順に従った具体的な作成方法と注意点は次節で説明する。

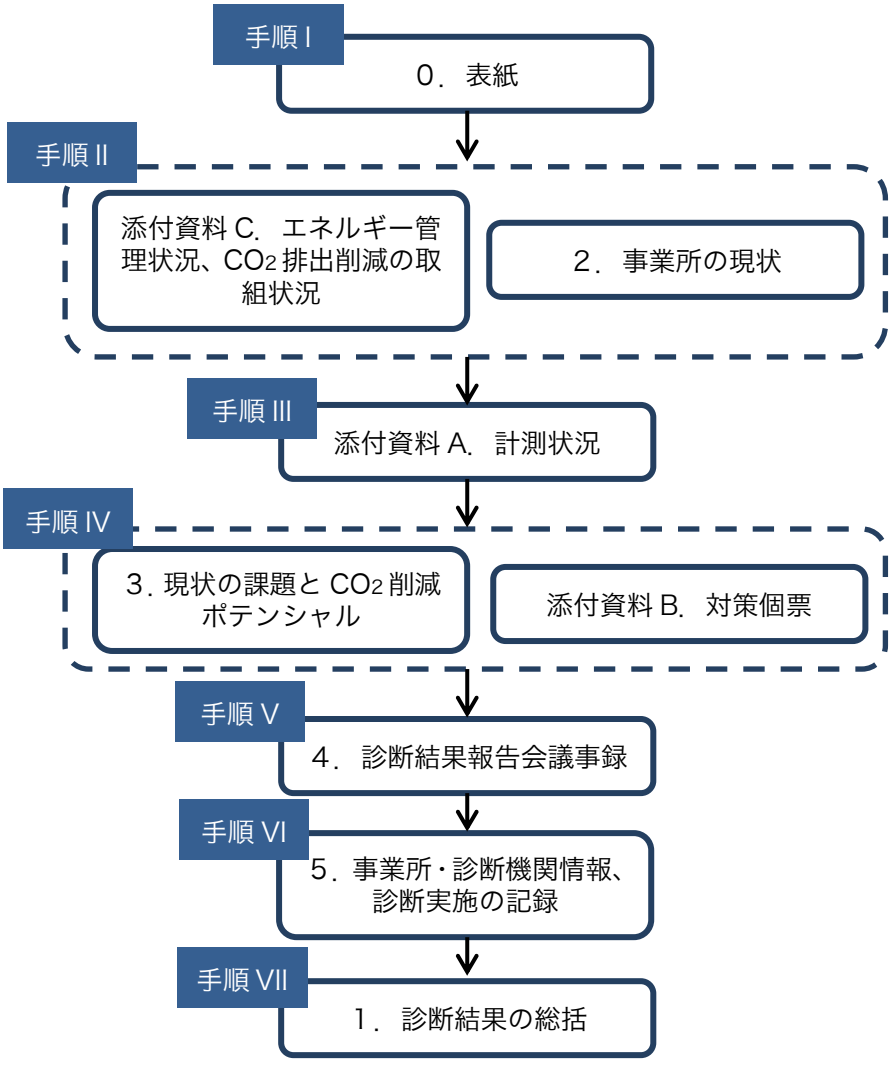


図 6.2.2 診断結果報告書の効率的な作成手順

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

6.3　各シートの作成方法と注意点

エクセル形式の診断結果報告書の各シートは、左側の印刷エリア、右側の入力エリアに分かれている。入力エリアには黄・緑・青のセルがあり、入力作業は黄および緑のセルについて行なう。青のセルは他シートからの自動転記や自動計算が行なわれる。

本節では、前節の効率的な作成手順に従い、各シートの作成方法や注意点を示す。

各シートは一部を除いて左側の印刷エリア、右側の入力エリアに分かれている。文字の入力やプルダウンリストからの選択は右側の入力エリアで行なう。入力エリアに入力した情報は、印刷エリアに自動転記され、印刷エリアのページが作成される。（ただし、写真や図表については印刷エリアに直接貼り付ける。）

診断結果報告書様式の［添付資料 B.　対策個票］は、シート名「B1」～「B20」までの 20 シートが用意されているので、最終的に不要となったシートは削除する。

各シートには作成に関する注記が記載されているので、本節と併せて確認すること。

＜基本操作＞

入力エリアには黄・緑・青のセルがあり、入力作業は、黄および緑のセルについて行なう。青のセルでは他シートからの自動転記や自動計算が行なわれるため、直接の操作は不要である。

表 6.3.1　セル色と入力作業

黄色のセル：直接入力（MS ゴシック 10pt 黒色）
緑色のセル：プルダウンリストからの選択、あるいはチェックによる選択
青色のセル：自動入力・自動転記・自動計算（上書き不可）

＜禁止事項＞

診断結果報告書様式は、基本的にシート保護により改変ができないようになっているが、一部利便性の観点から操作可能な事項がある。ただし、次の操作は様式の不具合につながるので、実施しないこと。

- 各シートの行・列を変更する。
  （シート名「○○別紙」（以下、「別紙シート」という）を除く。）
- 別紙シート以外のシートを削除する。
- 別紙シート以外のシートを別ファイルからコピー／挿入する。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順 I

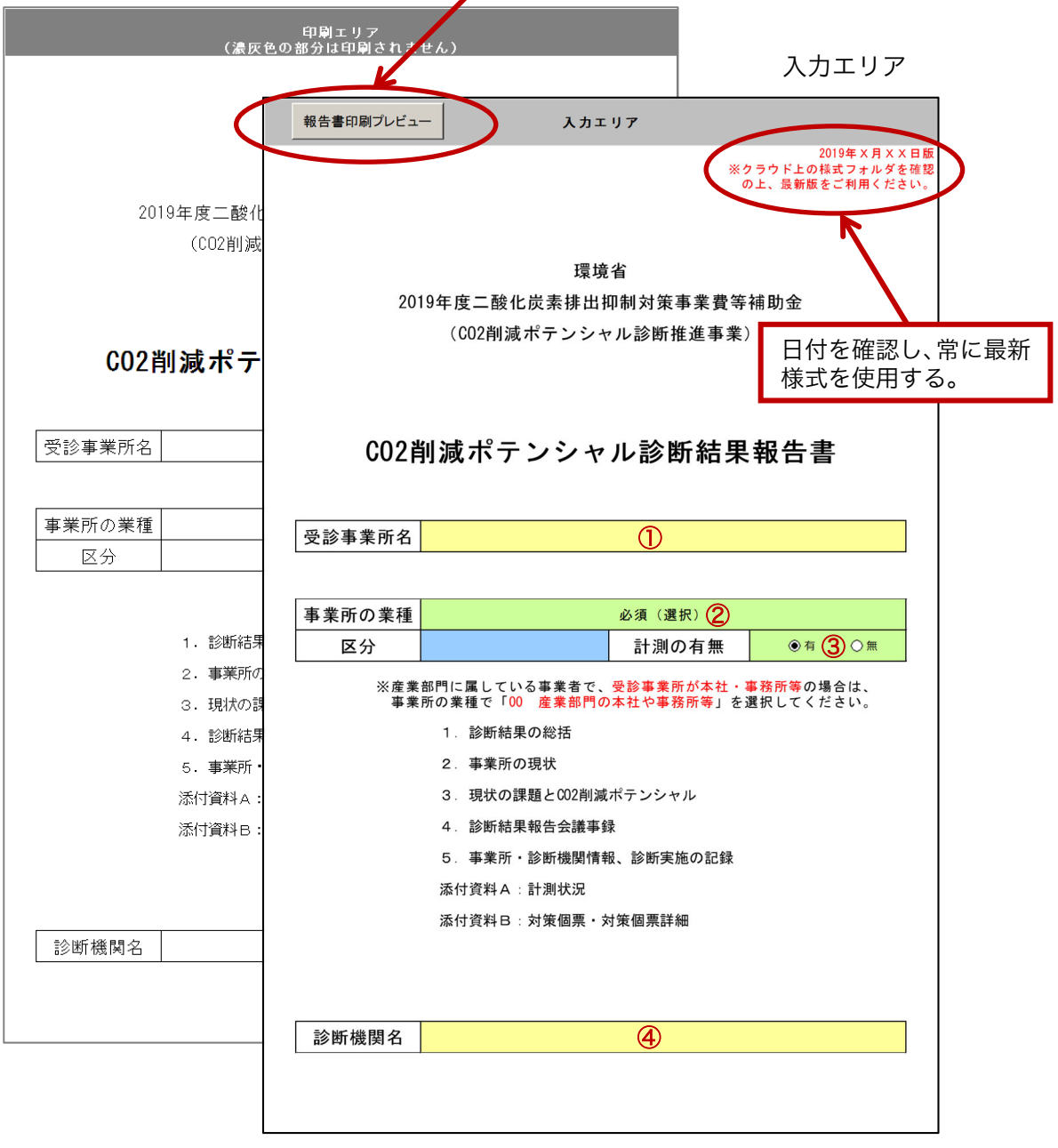
「0. 表紙」を作成する

① 受診事業所名を入力する。
② 事業所の業種を選択する。業務・産業の「区分」が自動入力される。
③ 計測の有無を選択する（初期値は「有」）。
④ 診断機関名を入力する。

すべての入力を終え、報告書を印刷する際に利用する。
このボタンを押すと印刷設定画面が開き、印刷プレビューを見ることができる。印刷実行前に、必要なページがすべて含まれているかを確認する。必要なページが漏れている場合には、「改ページプレビュー画面」にて印刷範囲を調節する。

印刷エリア（入力箇所なし）

入力エリア



日付を確認し、常に最新様式を使用する。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順Ⅱ－①

「添付資料Ｃ．エネルギー管理状況、CO_2 排出削減の取組状況」（印刷エリアなし）を作成する

① ［C1. エネルギー管理状況］で、エネルギー管理に関して該当する状況に〇を付ける。番号 8-1、8-2 はプルダウンリストより回答を選択する。

② ［C2. 認証等取得状況］で、環境・エネルギー関係の認証規格の取得（予定）年を記入、または未取得の欄に〇を付ける。必要に応じて、認証の名称を追記し取得（予定）年を入力する。

入力エリア

資料Ｃ：エネルギー管理状況・CO2排出削減の取組状況

・C1．エネルギー管理状況、C2．認証等取得状況、C3．温室効果ガス対策の実施状況から、
受診事業所のエネルギー管理状況およびCO2排出削減の取組み状況の説明を記入してください。
・【総括】は１－２．および２－２．、【詳細説明】は２－２．に転記されます。

【総括】 ・【総括】記入分は１－２．に転記されますので、サマリーを記入してください。

④

【詳細説明】 ・【詳細説明】欄は、サマリーでは説明が不十分な場合に利用してください。

C1. エネルギー管理状況 ①

・該当する項目に〇を付けてください。
・受診事業所がエネルギー使用状況を把握（見える化）している場合には、その頻度を選択肢から選んでください

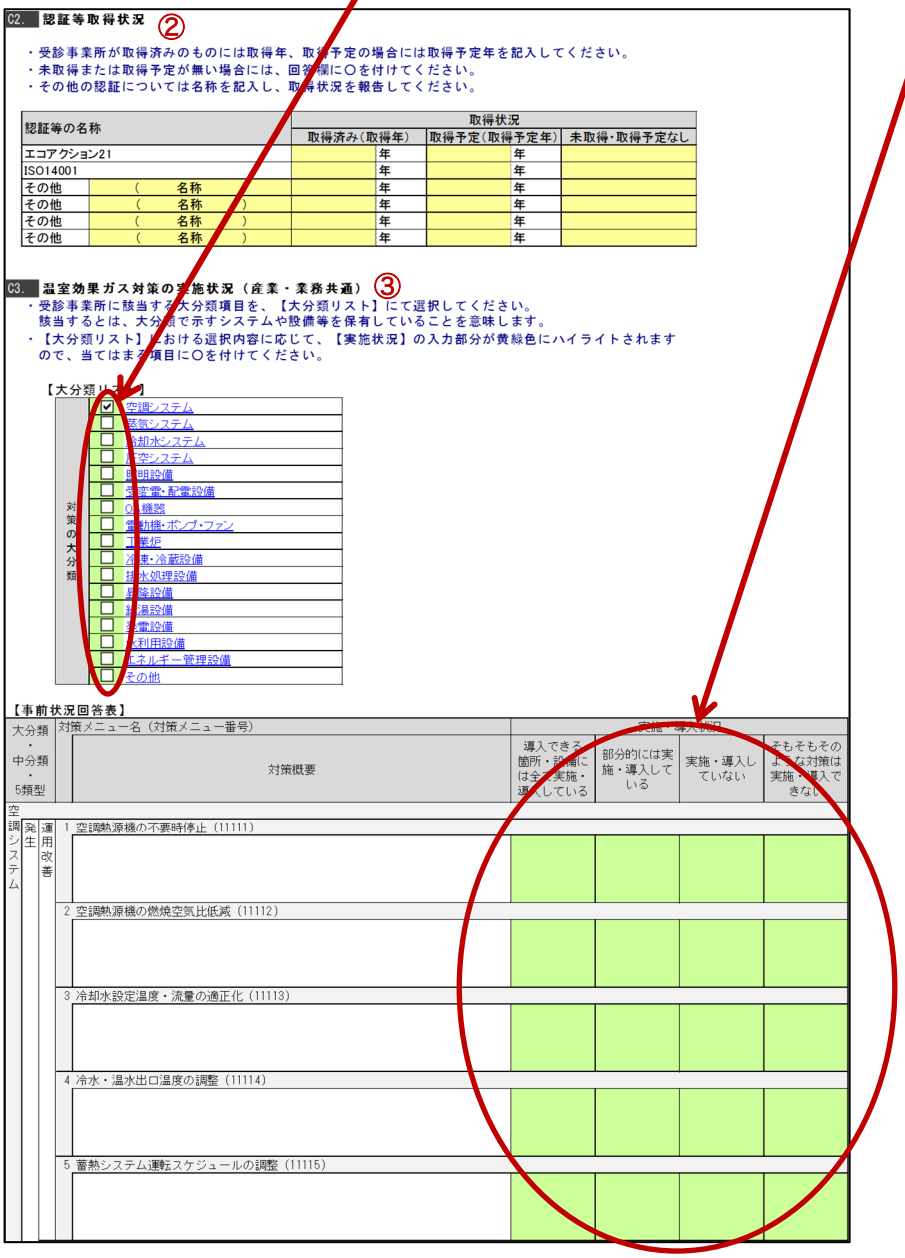
区分	番号	名称 / 概要	実施状況：実施している	部分的に実施している	実施していない
エネルギー管理体制	1	推進体制の整備 関連部門が参加するCO_2排出削減に向けての推進体制がある。			
	2	検討会の開催 関連部門が参加するエネルギー使用状況及びCO_2排出量推移等の検討会を実施している。			
	3	CO_2排出削減目標の設定 CO_2排出削減目標が定められており、事業所全体で改善活動を実施している。			
	4	小集団活動の実施 CO_2削減に向けて、小集団活動等（例：QC活動）の改善活動を実施している。			
	5	評価・表彰制度の制定 CO_2削減に関して、改善提案制度等の従業者に対する評価・表彰制度がある。			
	6	経営層の関与 トップのCO_2削減に向けての強い意識、指導がある。			
	7	教育の実施 CO_2削減に関する研修会等への参加やOJTでの教育等を実施している。			
エネルギー把握（見える化）	8	エネルギー使用の把握 エネルギー種類別に、使用量を定量的に把握している。			
		8-1 把握の頻度			
		8-2 把握の最小範囲			
	9	データの収集と分析 エネルギー使用データは、関連する設備の操業条件、気象条件、稼働率等のデータと併せて使用実績の分析を行っている。			
	10	データの見える化と共有化 データの見える化を進め、関係者間でのエネルギー使用状況の共有化を行っている。			
	11	CO_2排出量の管理 エネルギー使用量やCO_2排出量を算出し、目標に対する達成状況の評価を行っている。			

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

③ ［C3. 温室効果ガス対策の実施状況］において、事業所の該当する項目にチェックを入れ、事前状況回答表の回答欄が緑色になった設問について、当てはまる項目を選択する。

④ ①、②、③に示した内容の総括をシート上部にある「総括」欄に入力し、詳細を「詳細説明」欄に入力する。

事業所の状況に該当するものにチェックを入れると、チェックに該当する設問の回答欄が緑色に変わるため、その項目について４つの選択肢から当てはまる項目に〇をつける（プルダウンより選択）。



「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順 II －②

「２．事業所の現状」を作成する。（産業用・業務用の２種類がある。）

ノート

「2.事業所の現状」は「0.表紙」で選択した業種によって、産業用、または業務用のフォーマットが自動選択されます。

① ［2-1. 事業所規模］に、年間出荷額（産業用）、延床面積（業務用）などの事業規模を入力する。（産業用と業務用で記入項目が異なる。）

② ［2-2. エネルギー管理状況・CO_2 削減の取組み状況］は「添付資料C．エネルギー管理状況、CO_2 排出削減の取組み状況」から自動転記される。

③ ［2-3. 工程・エネルギーフロー、及びエネルギーロスの発生状況］の印刷エリアに、工程・エネルギーフロー、エネルギーロスの発生状況を作図または貼付する。

＜産業用シート［2-1. 事業所規模］（以降の内容は業務用と同じ）＞

印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）
２．事業所の現状（産業）

２－１．事業所規模

事業所全体の年間出荷額		千円
最終製品名		
製品名		
年間生産量		

＜業務用シート＞

印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）
２．事業所の現状（業務）

２－１．事業所規模

建物全体	階数	地上	階
		地下	階
	延床面積		千m2
テナント利用	専用部の延床面積		千m2

２－２．エネルギー管理状況・CO2排出削減の取組み状況
■*総括*　（１－２．に同じ）

■*詳細説明*

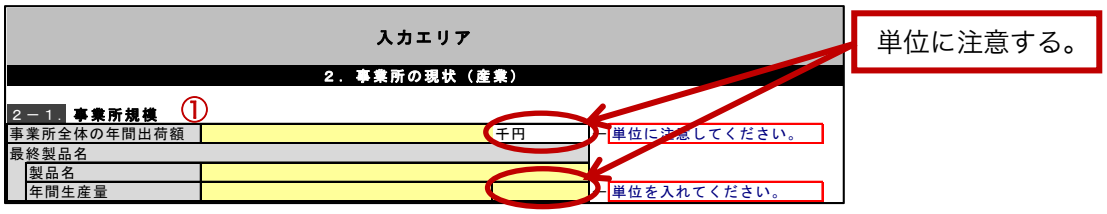
２－３．工程・エネルギーフロー、及びエネルギーロスの発生状況

③

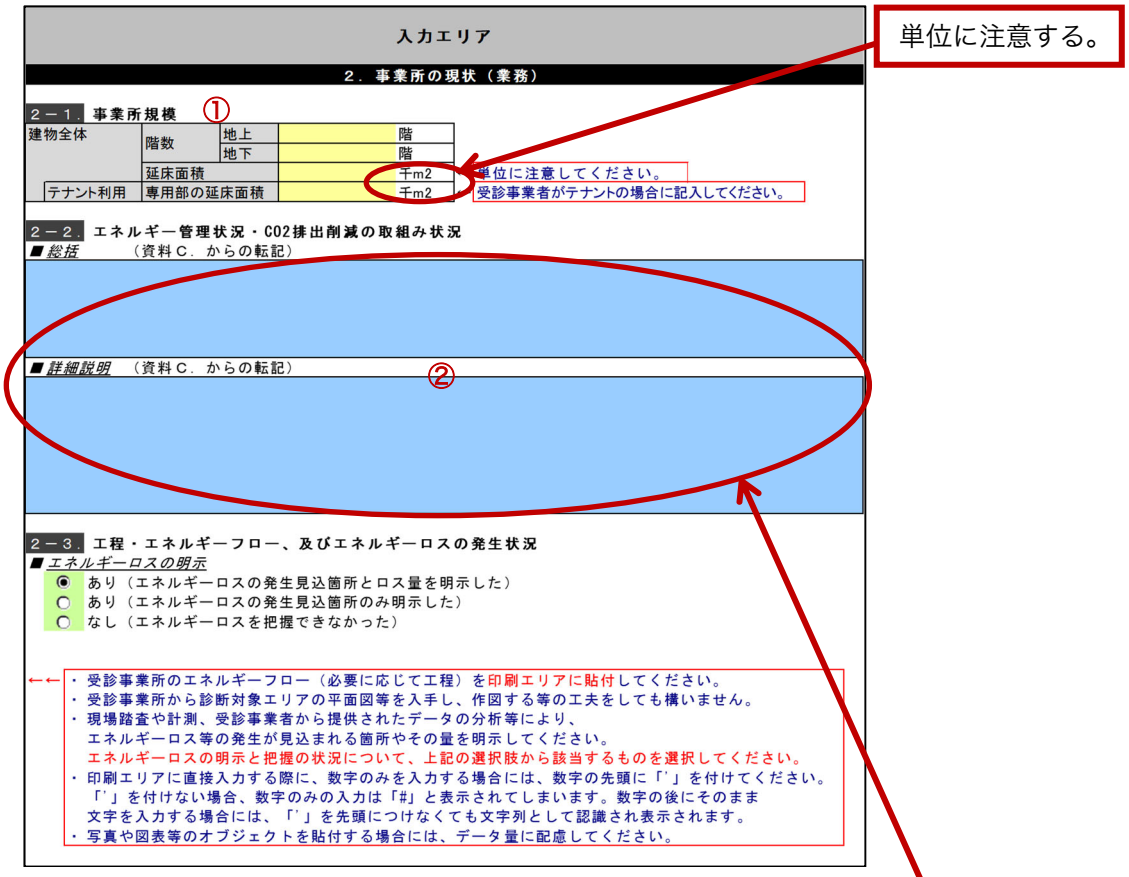
「工程・エネルギーフロー、及びエネルギーロスの発生状況」は、印刷エリアに直接作図または貼り付けを行なう。作成方法は、2.2 節「Step4：現状分析・課題抽出」を参照する。具体的な業種ごとの事例は第５章に記載されている。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

＜産業用シートの［2-1. 事業所規模］（以降の内容は業務用と同じ）＞



＜業務用シート＞



「添付資料C．エネルギー管理状況、CO_2 排出削減の取組み状況」で入力したエネルギー管理状況、CO_2 排出削減の取組状況に関する概要と詳細説明が自動反映される。

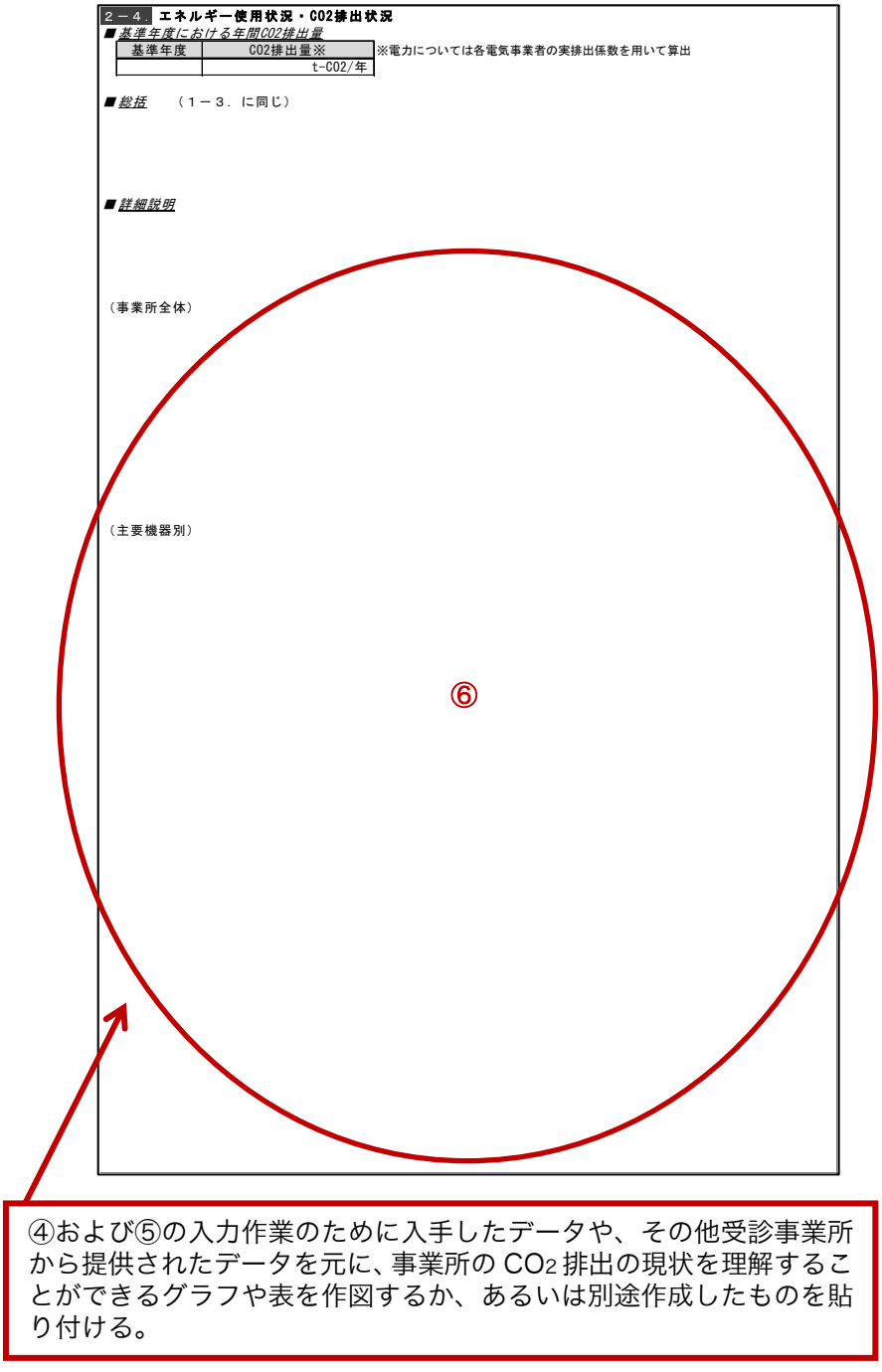
「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

④ ［2-4. (1) エネルギー使用状況・CO_2 排出状況］に、基準年度の事業所のエネルギー使用量を入力し、CO_2 排出量を算出する。

⑤ ［2-4. (2) 主要機器のエネルギー消費状況］に、主要機器の稼働状況等を入力し、エネルギー使用量、CO_2 排出量を算出する。

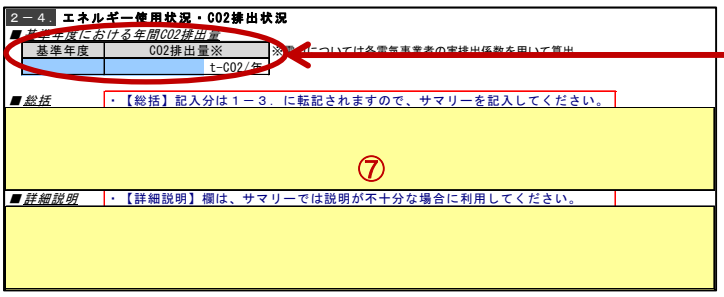
⑥ ［2-4. エネルギー使用状況・CO_2 排出状況］の印刷エリア（事業所全体）（主要機器別）に、④、⑤、および受診事業者から入手したその他のデータを利用して、エネルギー消費状況や CO_2 排出状況を示すグラフ等を作図または貼付する。

⑦ ④、⑤、⑥に示した内容の総括をシート上部にある「総括」欄に記入し、詳細を「詳細説明」欄に入力する。



④および⑤の入力作業のために入手したデータや、その他受診事業所から提供されたデータを元に、事業所の CO_2 排出の現状を理解することができるグラフや表を作図するか、あるいは別途作成したものを貼り付ける。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）



2－4．エネルギー使用状況・CO2排出状況

■基準年度における年間CO2排出量

基準年度	CO2排出量※
	t-CO2/年

※電力については各電気事業者の実排出係数を用いて算出

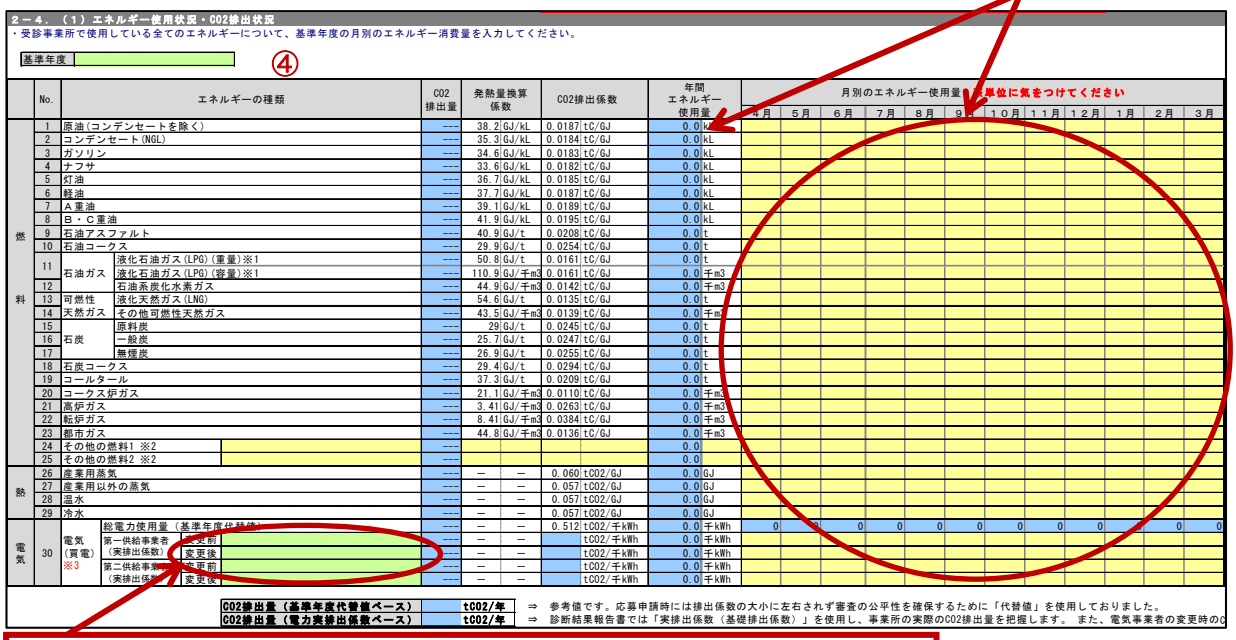
■総括　・【総括】記入分は１－３．に転記されますので、サマリーを記入してください。

⑦

■詳細説明　・【詳細説明】欄は、サマリーでは説明が不十分な場合に利用してください。

2-4. (1) で選択・算出された値が自動反映される。

単位に注意し、エネルギー使用量を入力する。



2－4．（1）エネルギー使用状況・CO2排出状況

・受診事業所で使用している全てのエネルギーについて、基準年度の月別のエネルギー消費量を入力してください。

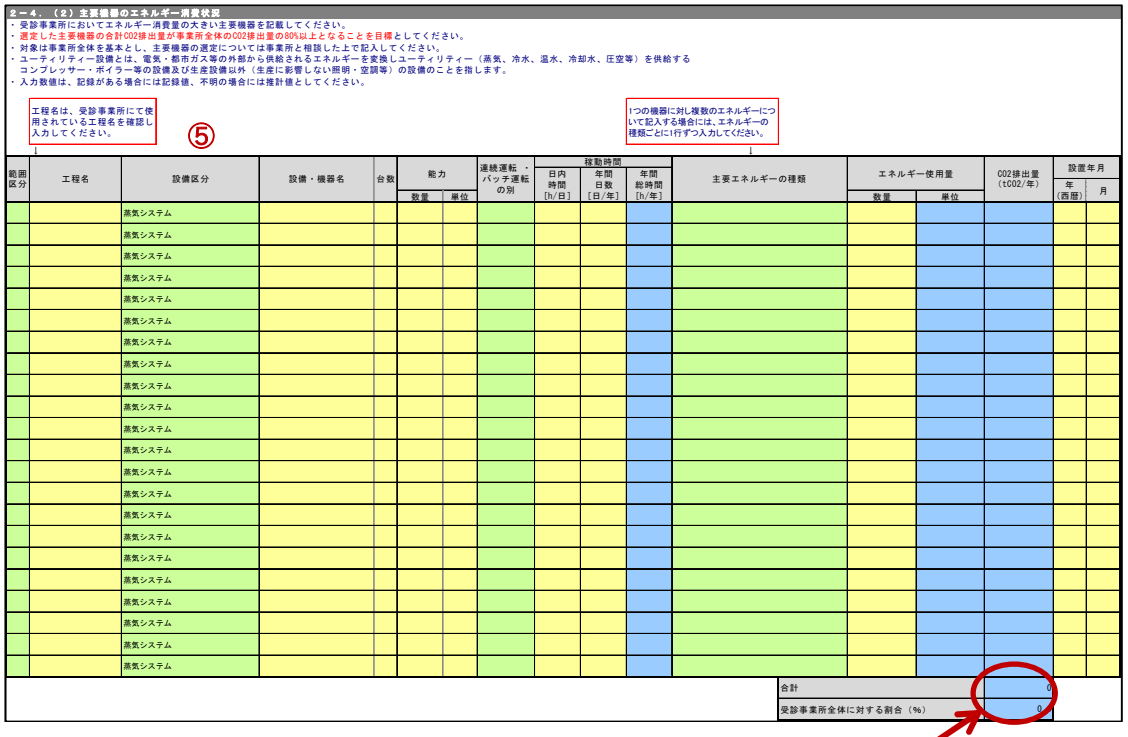
基準年度　④

	No.	エネルギーの種類		CO2排出量	発熱量換算係数		CO2排出係数		年間エネルギー使用量	月別のエネルギー使用量 ※単位に気をつけてください 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
燃料	1	原油（コンデンセートを除く）		----	38.2	GJ/kL	0.0187	tC/GJ	0.0	kL											
	2	コンデンセート（NGL）		----	35.3	GJ/kL	0.0184	tC/GJ	0.0	kL											
	3	ガソリン		----	34.6	GJ/kL	0.0183	tC/GJ	0.0	kL											
	4	ナフサ		----	33.6	GJ/kL	0.0182	tC/GJ	0.0	kL											
	5	灯油		----	36.7	GJ/kL	0.0185	tC/GJ	0.0	kL											
	6	軽油		----	37.7	GJ/kL	0.0187	tC/GJ	0.0	kL											
	7	A重油		----	39.1	GJ/kL	0.0189	tC/GJ	0.0	kL											
	8	B・C重油		----	41.9	GJ/kL	0.0195	tC/GJ	0.0	kL											
	9	石油アスファルト		----	40.9	GJ/t	0.0208	tC/GJ	0.0	t											
	10	石油コークス		----	29.9	GJ/t	0.0254	tC/GJ	0.0	t											
	11	石油ガス	液化石油ガス（LPG）（重量）※1	----	50.8	GJ/t	0.0161	tC/GJ	0.0	t											
			液化石油ガス（LPG）（容量）※1	----	110.9	GJ/千m3	0.0161	tC/GJ	0.0	千m3											
	12		石油系炭化水素ガス	----	44.9	GJ/千m3	0.0142	tC/GJ	0.0	千m3											
	13	可燃性	液化天然ガス（LNG）	----	54.6	GJ/t	0.0135	tC/GJ	0.0	t											
	14	天然ガス	その他可燃性天然ガス	----	43.5	GJ/千m3	0.0139	tC/GJ	0.0	千m3											
	15	石炭	原料炭	----	29	GJ/t	0.0245	tC/GJ	0.0	t											
	16		一般炭	----	25.7	GJ/t	0.0247	tC/GJ	0.0	t											
	17		無煙炭	----	26.9	GJ/t	0.0255	tC/GJ	0.0	t											
	18	石炭コークス		----	29.4	GJ/t	0.0294	tC/GJ	0.0	t											
	19	コールタール		----	37.3	GJ/t	0.0209	tC/GJ	0.0	t											
	20	コークス炉ガス		----	21.1	GJ/千m3	0.0110	tC/GJ	0.0	千m3											
	21	高炉ガス		----	3.41	GJ/千m3	0.0263	tC/GJ	0.0	千m3											
	22	転炉ガス		----	8.41	GJ/千m3	0.0384	tC/GJ	0.0	千m3											
	23	都市ガス		----	44.8	GJ/千m3	0.0136	tC/GJ	0.0	千m3											
	24	その他の燃料1 ※2		----					0.0												
	25	その他の燃料2 ※2		----					0.0												
熱	26	産業用蒸気		----	—	—	0.060	tCO2/GJ	0.0	GJ											
	27	産業用以外の蒸気		----	—	—	0.057	tCO2/GJ	0.0	GJ											
	28	温水		----	—	—	0.057	tCO2/GJ	0.0	GJ											
	29	冷水		----	—	—	0.057	tCO2/GJ	0.0	GJ											
電気	30	電気（買電）※3	総電力使用量（基準年度代替値）	----	—	—	0.512	tCO2/千kWh	0.0	千kWh	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			第一供給事業者 変更前	----	—	—		tCO2/千kWh	0.0	千kWh											
			（実排出係数） 変更後	----	—	—		tCO2/千kWh	0.0	千kWh											
			第二供給事業者 変更前	----	—	—		tCO2/千kWh	0.0	千kWh											
			（実排出係数） 変更後	----	—	—		tCO2/千kWh	0.0	千kWh											

CO2排出量（基準年度代替値ベース）　tCO2/年　⇒ 参考値です。応募申請時には排出係数の大小に左右されず審査の公平性を確保するために「代替値」を使用しておりました。

CO2排出量（電力実排出係数ベース）　tCO2/年　⇒ 診断結果報告書では「実排出係数（基礎排出係数）」を使用し、事業所の実際のCO2排出量を把握します。また、電気事業者の変更時のC

受診事業者が契約している電気事業者をプルダウンリストから選択する。



2－4．（2）主要機器のエネルギー消費状況

・受診事業所においてエネルギー消費量の大きい主要機器を記載してください。
・選定した主要機器の合計CO2排出量が事業所全体のCO2排出量の80%以上となることを目標としてください。
・対象は事業所全体を基本とし、主要機器の選定については事業所と相談した上で記入してください。
・ユーティリティー設備とは、電気・都市ガス等の外部から供給されるエネルギーを変換しユーティリティー（蒸気、冷水、温水、冷却水、圧空等）を供給する
コンプレッサー・ボイラー等の設備及び生産設備以外（生産に影響しない照明・空調等）の設備のことを指します。
・入力数値は、記録がある場合には記録値、不明の場合には推計値としてください。

工程名は、受診事業所にて使用されている工程名を確認し入力してください。

⑤

1つの機器に対し複数のエネルギーについて記入する場合には、エネルギーの種類ごとに1行ずつ入力してください。

範囲区分	工程名	設備区分	設備・機器名	台数	能力 数量	能力 単位	連続運転・バッチ運転の別	稼動時間 日内時間 [h/日]	稼動時間 年間日数 [日/年]	稼動時間 年間総時間 [h/年]	主要エネルギーの種類	エネルギー使用量 数量	エネルギー使用量 単位	CO2排出量 (tCO2/年)	設置年月 年（西暦）	設置年月 月
		蒸気システム														
		蒸気システム														
		蒸気システム														

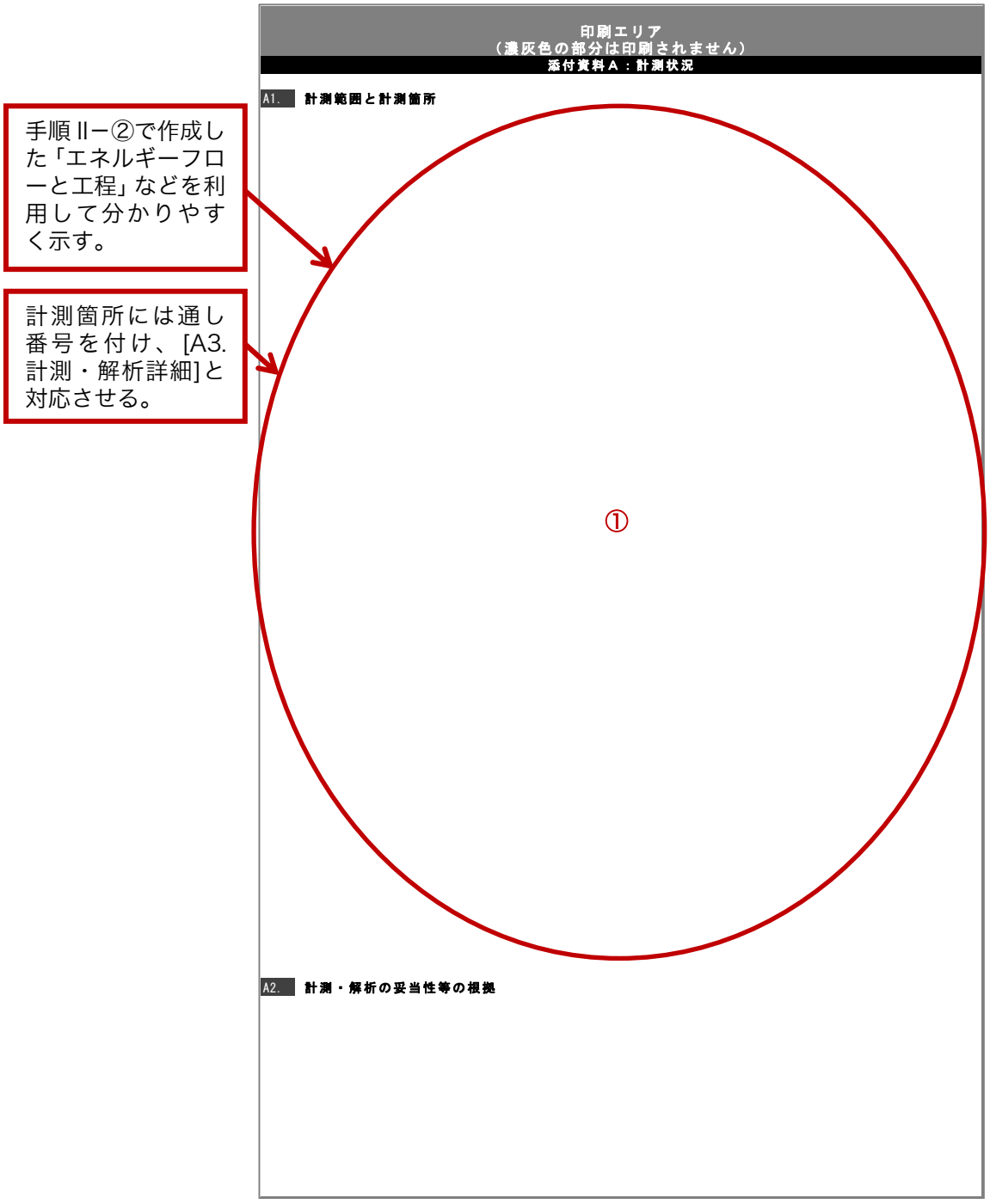
「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順Ⅲ

「添付資料 A. 計測状況」を作成する。

① ［A1. 計測範囲と計測箇所］の印刷エリアに、計測範囲と計測箇所を作図または貼付する。

② ［A2. 計測・解析の妥当性等の根拠］に、計測やデータ解析方法等の妥当性を示す。



「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

入力エリア

添付資料Ａ：計測状況

A1. 計測範囲と計測箇所

←←
・エネルギーフロー図等を使用して、計測箇所、エネルギー系統（電力系、Ａ重油系、蒸気系）、および範囲区分（ユーティリティ・生産設備）が分かるように示したものを、印刷エリアに貼付してください。
・計測箇所には番号を割り振り、その番号ごとにA3. に詳細を記入してください。
・受診事業所より設備機器等の計測（読み取り）データを入手した場合にも、同様に明示してください。

・印刷エリアに直接入力する際に、数字のみを入力する場合には、数字の先頭に「'」を付けてください。
「'」を付けない場合、数字のみの入力は「#」と表示されてしまいます。数字の後にそのまま文字を入力する場合には、「'」を先頭につけなくても文字列として認識され表示されます。
・写真や図表等のオブジェクトを貼付する場合には、データ量に配慮してください。

【ユーティリティの定義】
ユーティリティ設備とは、電気・都市ガス等の外部から供給されるエネルギーを変換しユーティリティ（蒸気、冷水、温水、冷却水、圧空等）を供給するコンプレッサー・ボイラー等の設備、及び生産設備以外（生産に影響しない照明・空調等）の設備のこと。

【補助金上限額確定の審査に必要な項目】
・ユーティリティまたは生産設備の別
・計測箇所

印字行数（文字数）＝11行（539文字）
（100%印刷時、MSゴシック10pt、
全角ひらがなの場合）

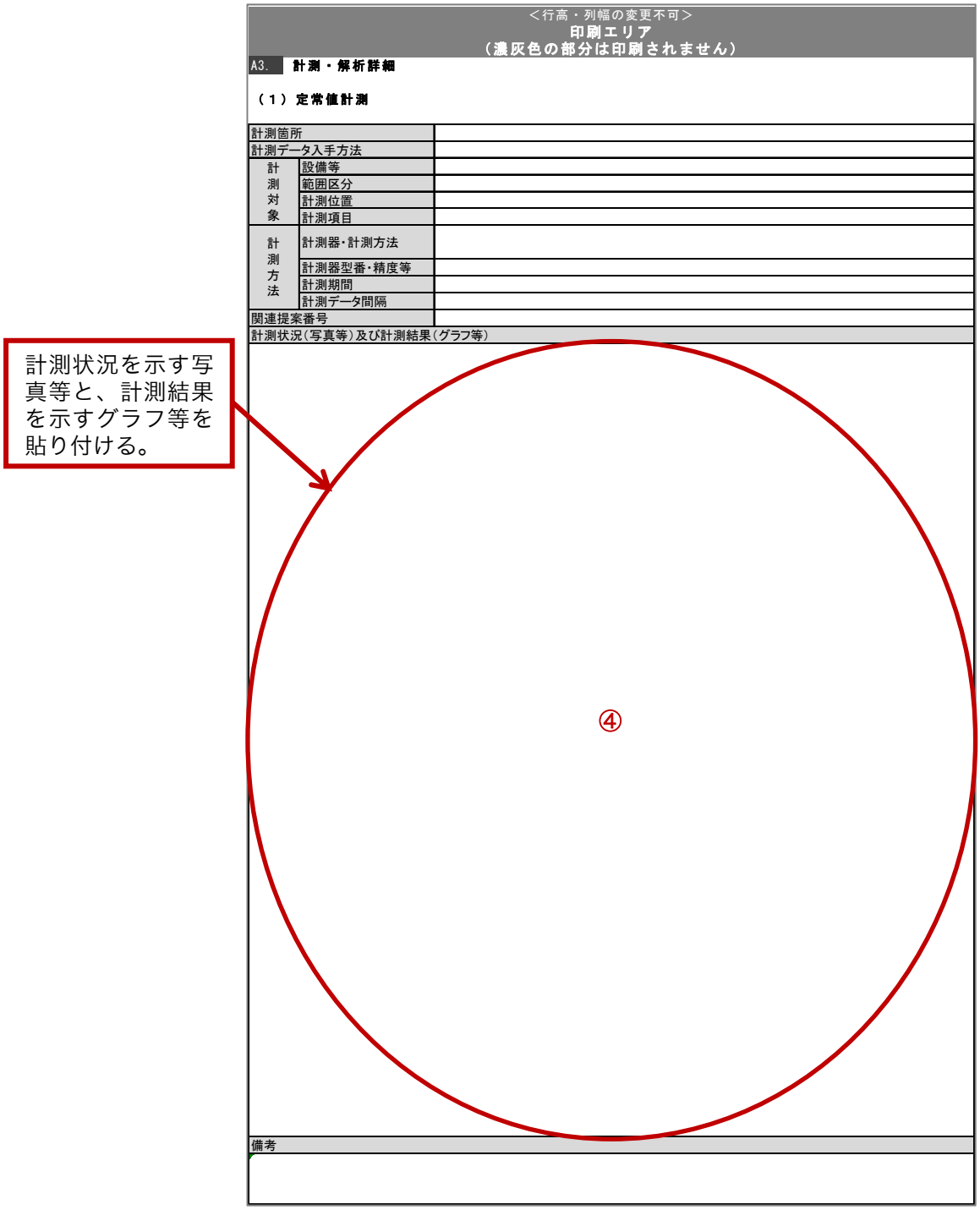
A2. 計測・解析の妥当性等の根拠

②

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

③ ［A3. 計測・解析詳細］に、計測箇所と計測状況の詳細を入力する。
④ ［A3. 計測・解析詳細］の印刷エリアに、計測状況を示す写真や、結果を示すグラフ等を貼付する。

※［A3. 計測・解析詳細］の様式は、計測箇所 1 カ所に対して下に示すページを作成する。ただし、計測対象の設備が異なっていても、測定項目および測定位置が同じである場合には、まとめて表記することもできる。



「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

※［A3. 計測・解析詳細 (1) 定常値計測］は変動が緩やかで変化幅が比較的小さい定常的な量の計測について記載し、［A3. 計測・解析詳細 (2) 変動値計測］は変動が大きいエネルギー関連量の計測について記載する。(1)定常値計測、(2)変動値計測は同一様式のため、ここでは(1)定常値計測のみを示す。

＜行高・列幅の変更不可＞
入力エリア

A3. 計測・解析詳細

作成の注意点 →→→→

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順Ⅳ－①

「3. 現状の課題と CO_2 削減ポテンシャル」[3-1. 現場踏査・計測・解析により明らかとなった課題と対策] を作成する。

① 課題のある設備・機器の名称、工程、範囲区分を入力する。
② 印刷エリアに当該設備・機器の写真を貼付する。
③ 課題番号に通し番号を付け、その内容と、対策の概要を示す。

＜行高・列幅の変更不可＞
印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）
３．現状の課題とCO2削減ポテンシャル

３－１． 現場踏査・計測・解析により明らかとなった課題と対策

設備・機器名	工程名	範囲区分

②

課題番号

課題内容

対策の視点	対策	提案番号

【備考】

課題番号

課題内容

対策の視点	対策	提案番号

【備考】

課題番号

課題内容

対策の視点	対策	提案番号

【備考】

課題番号

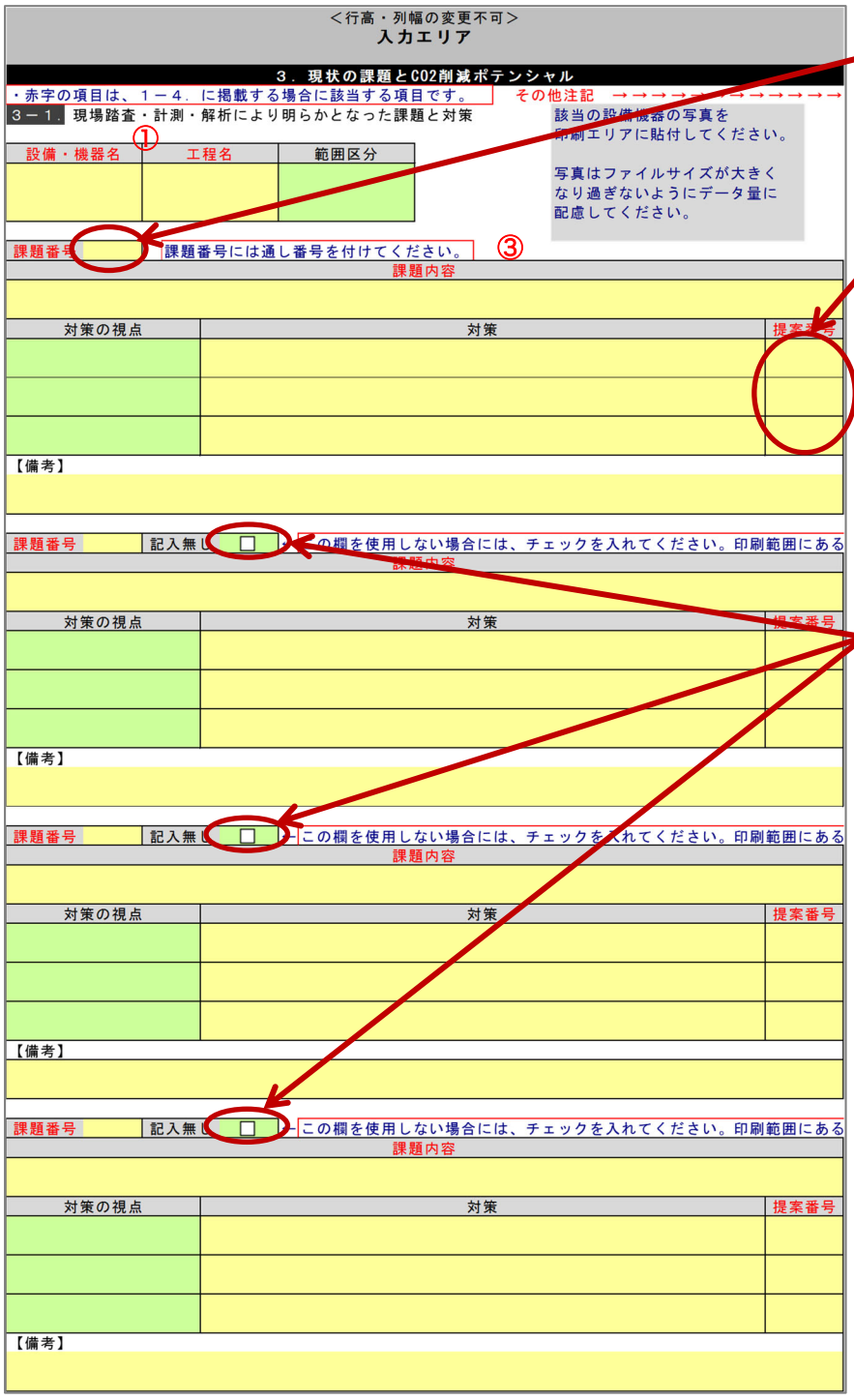
課題内容

対策の視点	対策	提案番号

【備考】

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

※［3-1. 現場踏査・計測・解析により明らかとなった課題と対策］は、課題のある設備・機器ひとつに対し、下に示すページを作成する。



課題ごとに通し番号を付ける。

各対策の提案番号を入力する。
［B. 対策個票］のシート名がこれに該当する。
必ず「B1」から「B20」までの、半角英数字による「B」と「1～20」の番号を組み合わせた表記とする。

入力の無い欄については、「記入無し」にチェックを入れる。これにより、印刷エリアの未記入欄が非表示となる。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順Ⅳ－②

「添付資料 B.　対策個票」を作成する。

［3-1. 現場踏査・計測・解析により明らかとなった課題と対策］で定めた対策番号に合わせてシート名「B1」～「B20」のシートを使用する。提案数に応じて不要となったシートは削除する。

① 提案する対策の対策名称等の概要を入力する。

印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）

添付資料B：対策個票（対策毎の提案内容の詳細）

【提案番号と対策名称】
B1

(1) 対策概要

対策名称		効果算定が困難な対策	□
対策メニュー名			
工程名			
適用箇所	設備区分		
	設備・機器名		
設備のエネルギー使用の問題点（CO2削減ポテンシャル）			
提案する対策の内容			
想定される課題と解決方法			
投資回収年数	単純投資回収年数 ※(a)導入コスト変化欄内の対策実施後のコスト合計÷(b)運転コスト変化		年
	[備考]		
対策選択の理由			

制約条件（有り＝○）	対策実施における制約条件		備考（対応策等）
	初期コスト		
	投資回収年数		
	削減効果の不確実性		
	設置スペース		
	既存の設備・生産ラインへの適合		
	対策実施による操業への影響		
	故障・不具合のリスク		
	その他		

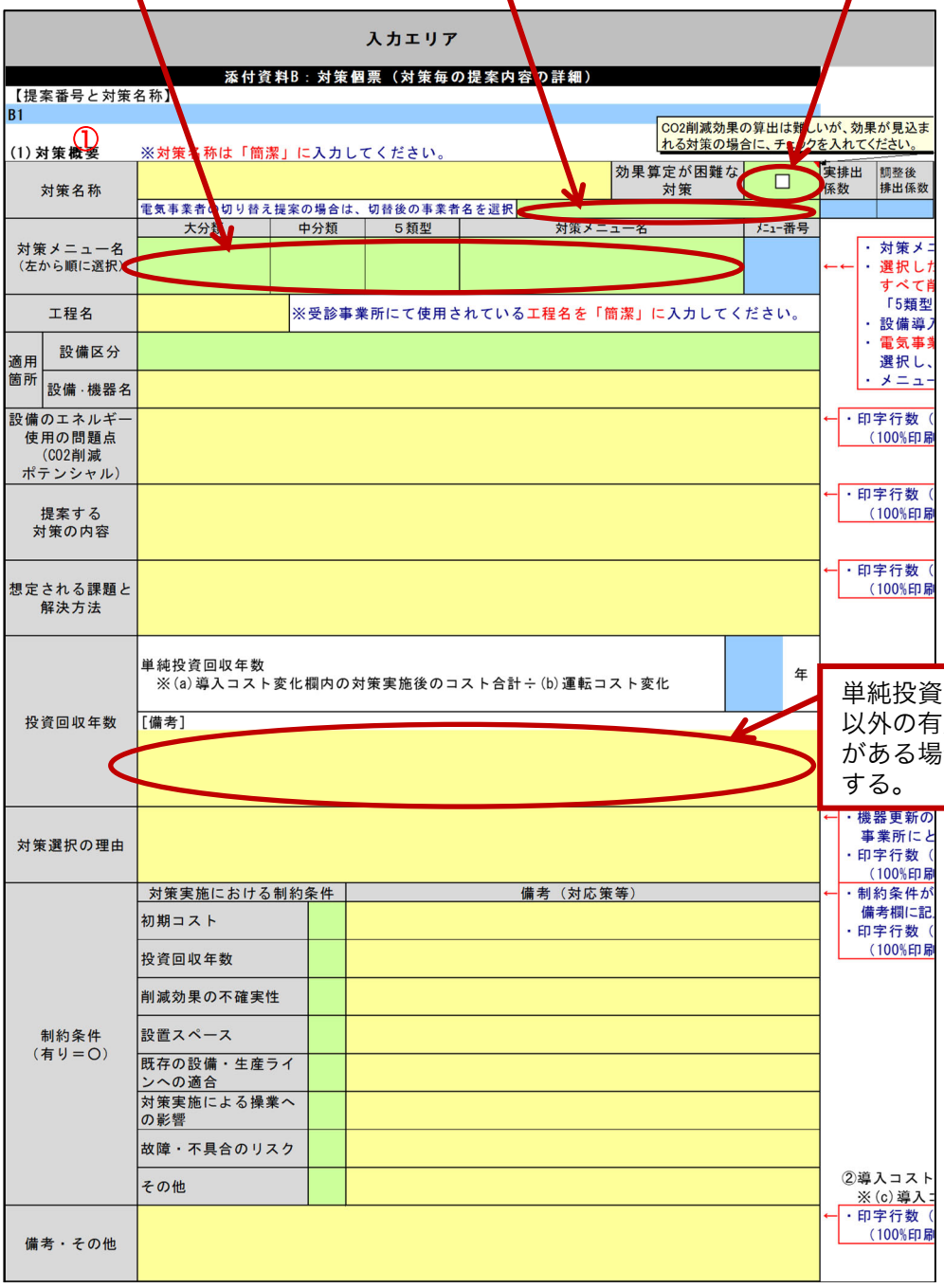
備考・その他	

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

電気事業者の変更を提案する場合には、提案する電気事業者をプルダウンから選択する。

効果の算出が難しい対策の場合にチェックを入れ、[(1)対策概要]と[(3)導入コストの変化]を入力する。

必ず左から順番に選択する。



入力エリア

添付資料B：対策個票（対策毎の提案内容の詳細）

【提案番号と対策名称】

B1

(1)対策概要 ①

※対策名称は「簡潔」に入力してください。

CO2削減効果の算出は難しいが、効果が見込まれる対策の場合に、チェックを入れてください。

対策名称					効果算定が困難な対策	実排出係数	調整後排出係数
電気事業者の切り替え提案の場合は、切替後の事業者名を選択							
対策メニュー名（左から順に選択）	大分類	中分類	5類型	対策メニュー名	メニュー番号		
工程名	※受診事業所にて使用されている工程名を「簡潔」に入力してください。						
適用箇所	設備区分						
	設備・機器名						
設備のエネルギー使用の問題点（CO2削減ポテンシャル）							
提案する対策の内容							
想定される課題と解決方法							
投資回収年数	単純投資回収年数 ※(a)導入コスト変化欄内の対策実施後のコスト合計÷(b)運転コスト変化				年		
	[備考]						
対策選択の理由							

制約条件（有り＝○）	対策実施における制約条件		備考（対応策等）
	初期コスト		
	投資回収年数		
	削減効果の不確実性		
	設置スペース		
	既存の設備・生産ラインへの適合		
	対策実施による操業への影響		
	故障・不具合のリスク		
	その他		

備考・その他	

単純投資回収年数以外の有用な情報がある場合に記入する。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

② 使用しているエネルギーの種類を選択し、使用量を入力する。
③ エネルギー単価およびその根拠を入力する。
④ 運転管理費等の内容と、コストおよびその根拠を入力する。
⑤ 導入する設備の名称等と、コストおよびその根拠を入力する。

(2) CO2排出量・エネルギー費用・運転コストの削減効果

	エネルギーの種類	対策実施前	対策実施後
エネルギー消費量の変化			
	算出方法		
	計測データとの対応		

	エネルギーの種類	排出係数	対策実施前	対策実施後	削減効果
CO2排出量の変化			t-CO2/年	t-CO2/年	
			t-CO2/年	t-CO2/年	
			t-CO2/年	t-CO2/年	
			t-CO2/年	t-CO2/年	
			t-CO2/年	t-CO2/年	
	合計		0 t-CO2/年	0 t-CO2/年	0 t-CO2/年

	エネルギーの種類	エネルギー単価	対策実施前	対策実施後	削減効果
エネルギー費用の変化			千円/年	千円/年	
			千円/年	千円/年	
			千円/年	千円/年	
			千円/年	千円/年	
			千円/年	千円/年	
	合計（税込）		0 千円/年	0 千円/年	0 千円/年

	各種費用		対策実施前	対策実施後	削減効果
運転コストの変化	エネルギー費用		0 千円/年	0 千円/年	
	運転・管理費、用水費・薬品費等		千円/年	千円/年	
			千円/年	千円/年	
	合計（税込）		0 千円/年	0 千円/年	0 千円/年 ※（b）

(3) 導入コストの変化

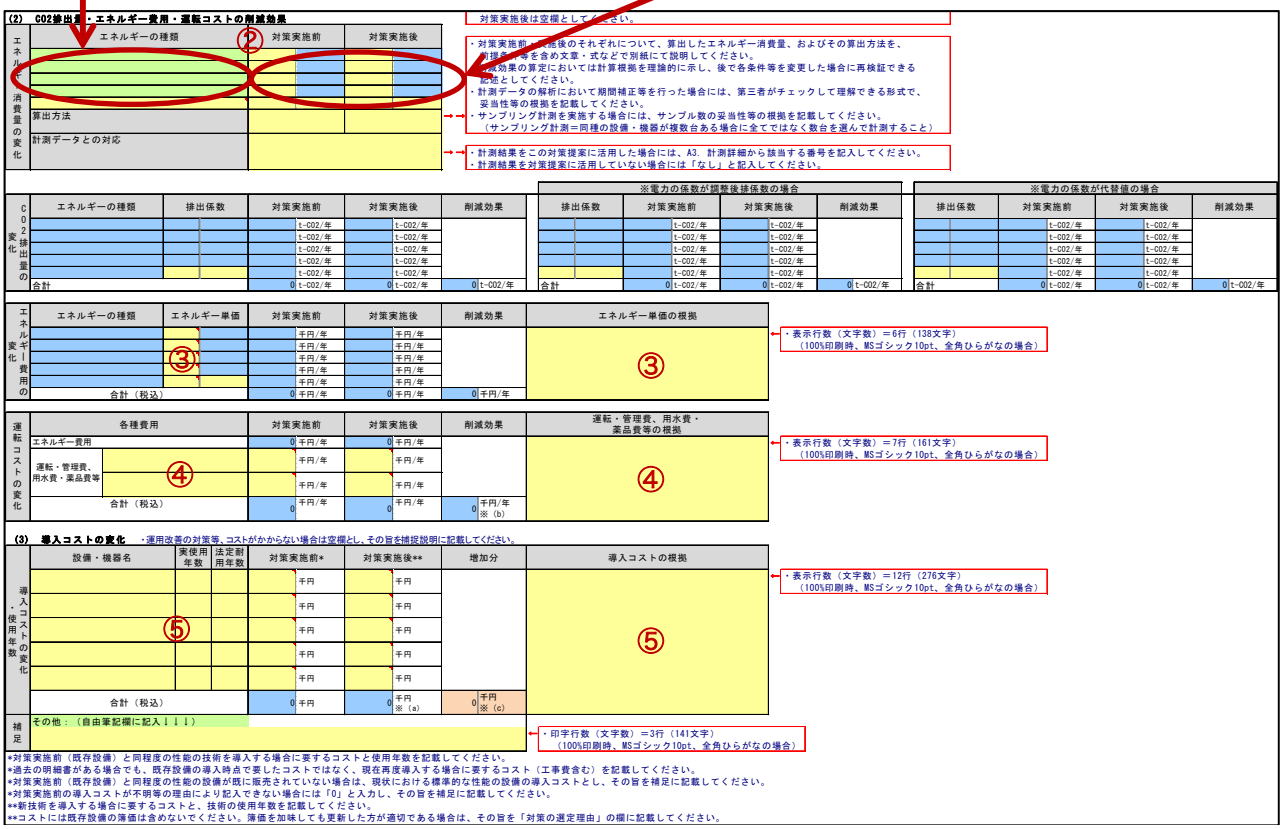
	設備・機器名	実使用年数	法定耐用年数	対策実施前*	対策実施後**	増加分
導入コスト・使用年数の変化				千円	千円	
				千円	千円	
				千円	千円	
				千円	千円	
				千円	千円	
	合計（税込）			0 千円	0 千円 ※（a）	0 千円 ※（c）
補足	0					

*対策実施前（既存設備）と同程度の性能の技術を再度導入する場合に要するコスト（工事費含む）。
**対策の選定理由に記載のない限り、既存設備の簿価は含まれていません。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

電気については、「2.事業所の現状」[2-4. (1) エネルギー使用状況・CO_2 排出状況]の「第一供給事業者・変更前／変更後」「第二供給事業者・変更前／変更後」、および電気事業者の変更提案の場合には「電気事業者の切り替え」の中からプルダウンで選択する。

エネルギーの種類を選択すると、単位が自動的に示されるので、その単位に注意してエネルギー量を入力する。



(2) CO2排出量・エネルギー費用・運転コストの削減効果

エネルギー消費量の変化

エネルギーの種類 ②	対策実施前	対策実施後
算出方法		
計測データとの対応		

対策実施後は空欄としてください。

・対策実施前・実施後のそれぞれについて、算出したエネルギー消費量、およびその算出方法を、削減率の算等を含め文章・式などで別紙にて説明してください。
・削減効果の算定においては計算根拠を理論的に示し、後で各条件等を変更した場合に再検証できる記述としてください。
・計測データの解析において期間補正等を行った場合には、第三者がチェックして理解できる形式で、妥当性等の根拠を記載してください。
・サンプリング計測を実施する場合には、サンプル数の妥当性等の根拠を記載してください。
（サンプリング計測＝同種の設備・機器が複数台ある場合に全てではなく数台を選んで計測すること）

・計測結果をこの対策提案に活用した場合には、A3. 計測詳細から該当する番号を記入してください。
・計測結果を対策提案に活用していない場合には「なし」と記入してください。

CO2排出量の変化

エネルギーの種類	排出係数	対策実施前	対策実施後	削減効果	※電力の係数が調整後排係数の場合 排出係数	対策実施前	対策実施後	削減効果	※電力の係数が代替値の場合 排出係数	対策実施前	対策実施後	削減効果
		t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年	
		t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年	
		t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年	
		t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年			t-CO2/年	t-CO2/年	
合計		0 t-CO2/年	0 t-CO2/年	0 t-CO2/年	合計	0 t-CO2/年	0 t-CO2/年	0 t-CO2/年	合計	0 t-CO2/年	0 t-CO2/年	0 t-CO2/年

エネルギー費用の変化

エネルギーの種類	エネルギー単価 ③	対策実施前	対策実施後	削減効果	エネルギー単価の根拠
		千円/年	千円/年		③
		千円/年	千円/年		
		千円/年	千円/年		
		千円/年	千円/年		
合計（税込）		0 千円/年	0 千円/年	0 千円/年	

・表示行数（文字数）＝6行（138文字）
（100%印刷時、MSゴシック10pt、全角ひらがなの場合）

運転コストの変化

各種費用		対策実施前	対策実施後	削減効果	運転・管理費、用水費・薬品費等の根拠
エネルギー費用		0 千円/年	0 千円/年		④
運転・管理費、用水費・薬品費等 ④		千円/年	千円/年		
		千円/年	千円/年		
合計（税込）		0 千円/年	0 千円/年	0 千円/年 ※(b)	

・表示行数（文字数）＝7行（161文字）
（100%印刷時、MSゴシック10pt、全角ひらがなの場合）

(3) 導入コストの変化 ・運用改善の対策等、コストがかからない場合は空欄とし、その旨を補足説明に記載してください。

導入コスト・使用年数の変化

設備・機器名	実使用年数	法定耐用年数	対策実施前*	対策実施後**	増加分	導入コストの根拠
⑤			千円	千円		⑤
			千円	千円		
			千円	千円		
			千円	千円		
			千円	千円		
合計（税込）			0 千円	0 千円 ※(a)	0 千円 ※(c)	

・表示行数（文字数）＝12行（276文字）
（100%印刷時、MSゴシック10pt、全角ひらがなの場合）

補足 その他：（自由筆記欄に記入！！！）

・印字行数（文字数）＝3行（141文字）
（100%印刷時、MSゴシック10pt、全角ひらがなの場合）

*対策実施前（既存設備）と同程度の性能の技術を導入する場合に要するコストと使用年数を記載してください。
*過去の明細書がある場合でも、既存設備の導入時点で要したコストではなく、現在再度導入する場合に要するコスト（工事費含む）を記載してください。
*対策実施前（既存設備）と同程度の性能の設備が既に販売されていない場合は、現状における標準的な性能の設備の導入コストとし、その旨を補足に記載してください。
*対策実施前の導入コストが不明等の理由により記入できない場合には「0」と入力し、その旨を補足に記載してください。
**新技術を導入する場合に要するコストと、技術の使用年数を記載してください。
**コストには既存設備の簿価は含めないでください。簿価を加味しても更新した方が適切である場合は、その旨を「対策の選定理由」の欄に記載してください。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順Ⅳ－③

「3. 現状の課題と CO_2 削減ポテンシャル」［3-2. 対策提案一覧］を作成する。

① 提案番号（例：B1）を入力し、シート名が当該番号の「添付資料 B. 対策個票」からデータを自動で読み込む。
② 各対策に対して、対策提案の種別に関する情報を入力する。
③ 対策提案の種別の「推奨対策」に〇を付けた提案について、解説や推奨する理由を入力する。

印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）

3－2. **対策提案一覧**

今回の診断で明らかとなった課題に対し提案されたCO2排出削減対策の一覧です。
対策の効果や、実施の推奨有無、活用可能な補助制度等が示されています。
各提案の詳細は、添付資料Bをご覧ください。
なお、一つの課題に対し、複数の対策が提案されている場合もありますので、
実施する対策を検討する際には、対策の選び方に注意してください。

■ *改善提案のまとめ*

運用改善	0 件
部分更新・機能付加	0 件
設備導入	0 件
燃料転換	0 件
電力の低炭素化	0 件
合計	0 件

■ *推奨対策の解説（向う3年間に実施を推奨する理由）*

区分	提案番号	対象 工程名	対策 対策名称	対策の種類（5類型）	効果 CO2削減効果 削減量（実排出係数）(tCO2/年)	削減率（事業所全体）(%)	(a) 導入コスト（千円）	(b) 運転コスト削減効果（千円/年）	単純投資回収年数 (= a/b)（年）	対策提案の種別 推奨対策	活用可能な補助制度
省エネルギー（運用改善／部分更新・機能付加／設備導入）											
燃料転換（ボイラーの燃料転換、既存ボイラーをヒートポンプに変更等）											
電力の低炭素化（再生可能エネルギー発電の導入）											
推奨する対策の合計（省エネ・燃料転換・再エネ発電）					0	0	0	0			
電力の低炭素化（電気事業者の変更）											

■ *同一課題に対して複数提案されている場合の対策の選び方*

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

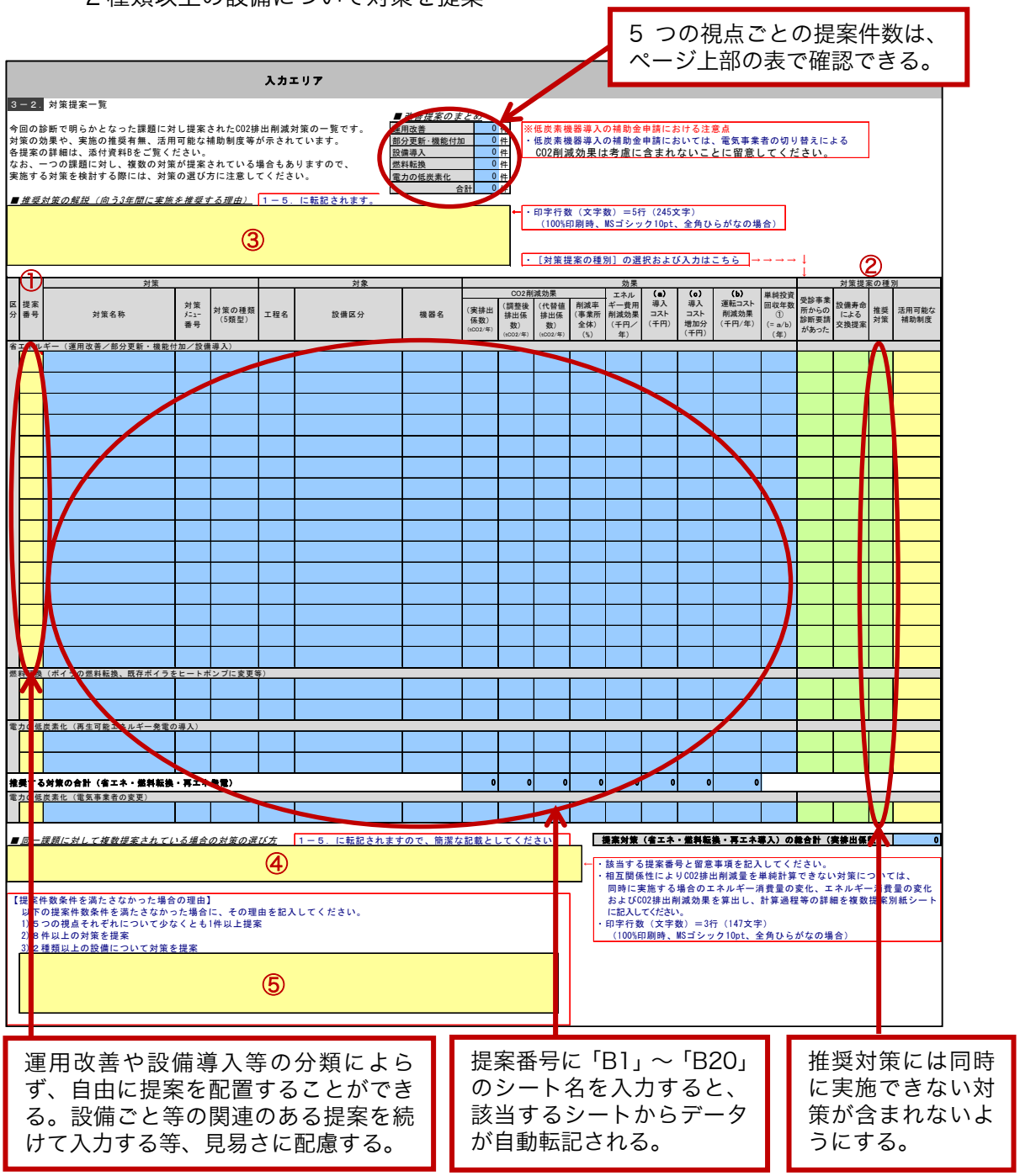
④ 同時に実施できない提案が含まれている場合には、対策選定方法を入力する。含まれていない場合には「該当なし」と入力する。

⑤ 次の「提案件数条件」を満たせない場合には、その理由を入力する。

・5 つの視点（運用改善、部分更新・機能付加、設備導入、燃料転換、電力低炭素化）のそれぞれについて、少なくとも 1 件以上提案

・8 件以上の対策を提案

・2 種類以上の設備について対策を提案



「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順Ⅴ

「4. 診断結果報告会議事録」を作成する。

① 報告会の開催日時、場所、参加者の情報を入力する。
② 提案した対策について、受診事業者の評価を記録する。
③ 提案した対策に対する追加のコメントや補足を入力する。
④ 対策へのコメント以外の受診事業者からのコメントを入力する。

印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）

4．診断結果報告会議事録

開催日時	年　月　日　～	開催場所	

出席者		役職	氏名
受診事業所	経営責任者または同等者		
	同席者１		
	同席者２		
	同席者３		
診断機関	診断責任者		
	診断員１		
	診断員２		

レビュー結果表記の注釈
・実施する体制がある
　ある＝〇　　ない＝×
・品質への影響
　少ない＝〇　　多い＝×
・事業・投資計画と合致
　合致する＝〇　　合致しない＝×

対策提案概要					受診事業者の評価					
区分	提案番号	対策名	CO2削減効果（tCO2/年）実排出係数	推奨対策	実施する体制がある	品質への影響が少ない	事業・投資計画と合致する	実施判断	実施時期（予定）	対策に対する事業所のコメント
省エネルギー（運用改善／部分更新・機能付加／設備導入）										
燃料転換										
電力の低炭素化（再生可能エネルギー発電の導入）										
推奨する対策の合計			0	（省エネ・燃料転換・再エネ発電の合計）						
実施する対策の合計			0	（省エネ・燃料転換・再エネ発電の合計）						
電力の低炭素化（電気事業者の変更）										

【各対策に対する受診事業所のコメント補足】

【その他コメント】

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

受診事業者が対策を「実施する」と判断した場合には、実施（予定）年度を選択するように受診事業者に働きかけること。
（この年度までに必ず実施しなければいけないものではないが、受診事業者に実施の意識付けを行なうという意図が含まれている。）

入力エリア

4．診断結果報告会議事録

開催日時	年 月 日 ～	開催場所	

①

出席者		役職	氏名
受診事業所	経営責任者または同等者		
	同席者 1		
	同席者 2		
	同席者 3		
診断機関	診断責任者（必須）		
	診断員 1		
	診断員 2		

レビュー結果表記の注釈
・実施する体制がある
　ある＝○　　ない＝×
・品質への影響
　少ない＝○　　多い＝×
・事業・投資計画と合致
　合致する＝○　　合致しない＝×

対策提案概要					受診事業者の評価 ②					
区分	提案番号	対策名称	CO2削減効果 (tCO2/年) 実排出係数	推奨対策	実施する体制がある	品質への影響が少ない	事業・投資計画と合致する	実施判断	実施時期 (予定)	対策に対する事業所のコメント
省エネルギー（運用改善／部分更新・機能付加／設備導入）										
燃料転換										
電力の低炭素化（再生可能エネルギー発電の導入）										
推奨する対策の合計			0	（省エネ・燃料転換・再エネ発電の合計）						
実施する対策の合計			0	（省エネ・燃料転換・再エネ発電の合計）						
電力の低炭素化（電気事業者の変更）										

【各対策に対する受診事業者のコメント補足】

③

【その他コメント】

④

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順VI

「5. 事業所・診断機関情報、診断実施の記録」を作成する。

① 事業所情報を入力する。
② 診断機関情報を入力する。
③ 診断実施に関連する日付を記録する。

印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）

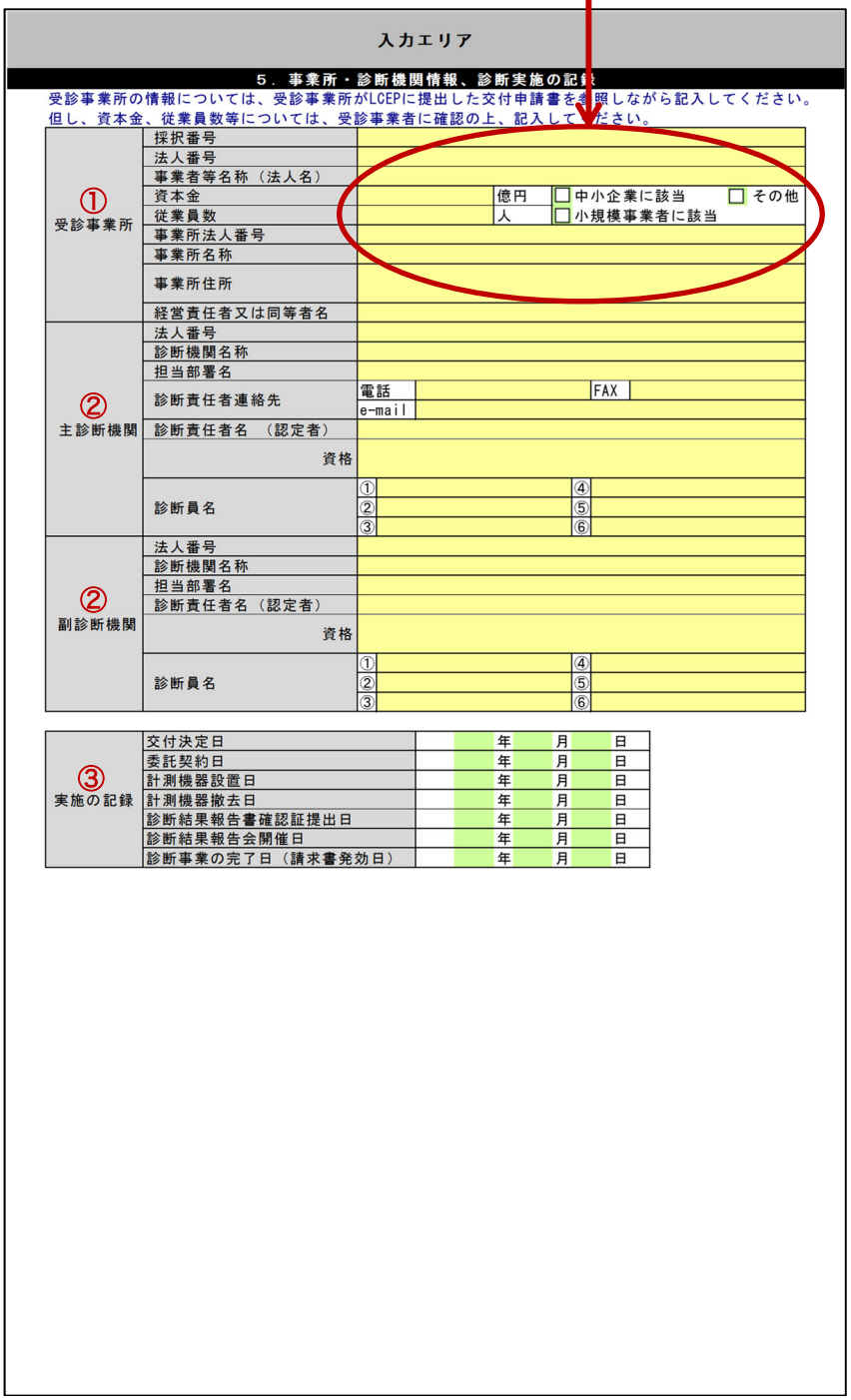
５．事業所・診断機関情報、診断実施の記録

受診事業所	採択番号				
	法人番号				
	事業者等名称（法人名）				
	資本金		億円	☐ 中小企業に該当	☐ その他
	従業員数		人	☐ 小規模事業者に該当	
	事業所法人番号				
	事業所名称				
	事業所住所				
	経営責任者又は同等者名				
主診断機関	法人番号				
	診断機関名称				
	担当部署名				
	診断責任者連絡先	電話		FAX	
		e-mail			
	診断責任者名 （認定者）				
	資格				
	診断員名	①		④	
		②		⑤	
		③		⑥	
副診断機関	法人番号				
	診断機関名称				
	担当部署名				
	診断責任者名（認定者）				
	資格				
	診断員名	①		④	
		②		⑤	
		③		⑥	

実施の記録	交付決定日	年 月 日
	委託契約日	年 月 日
	計測機器設置日	年 月 日
	計測機器撤去日	年 月 日
	診断結果報告書確認証提出日	年 月 日
	診断結果報告会開催日	年 月 日
	診断事業の完了日（請求書発効日）	年 月 日

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

受診事業者が診断補助申請のために提出した
交付申請書に類似情報が記載されている。



入力エリア

5．事業所・診断機関情報、診断実施の記録

受診事業所の情報については、受診事業所がLCEPに提出した交付申請書を参照しながら記入してください。
但し、資本金、従業員数等については、受診事業者に確認の上、記入してください。

①受診事業所	採択番号			
	法人番号			
	事業者等名称（法人名）			
	資本金		億円	□中小企業に該当 □その他
	従業員数		人	□小規模事業者に該当
	事業所法人番号			
	事業所名称			
	事業所住所			
	経営責任者又は同等者名			
②主診断機関	法人番号			
	診断機関名称			
	担当部署名			
	診断責任者連絡先	電話		FAX
		e-mail		
	診断責任者名（認定者）			
	資格			
	診断員名	①	④	
		②	⑤	
		③	⑥	
②副診断機関	法人番号			
	診断機関名称			
	担当部署名			
	診断責任者名（認定者）			
	資格			
	診断員名	①	④	
		②	⑤	
		③	⑥	

③実施の記録	交付決定日	年 月 日
	委託契約日	年 月 日
	計測機器設置日	年 月 日
	計測機器撤去日	年 月 日
	診断結果報告書確認証提出日	年 月 日
	診断結果報告会開催日	年 月 日
	診断事業の完了日（請求書発効日）	年 月 日

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

手順Ⅶ

「1. 診断結果の総括」を作成する。

① ［1-1. 事業所概要］の印刷エリアに受診事業所の外観写真を貼付する。

② ［1-3. エネルギーバランス・年間 CO_2 排出量］の印刷アリアに、［2-4. エネルギー使用状況・CO_2 排出状況］（事業所全体）（主要機器別）で示したグラフ等のうち、エネルギーバランスや年間 CO_2 排出量を示すものを貼付する。

③ ［1-4. 主な課題と対策］に［3-1. 現場踏査・計測・解析により明らかとなった課題と対策］で整理した現状の課題と対策を参照し、特に重要と思われる課題を選択して、その内容を入力する。

＜２ページ目＞（入力箇所なし）

＜１ページ目＞

印刷エリア
（濃灰色の部分は印刷されません）

1．診断結果報告書の総括

1－1．事業所概要

事業所名	
所在地	

①

1－2．エネルギー管理状況・CO2排出削減の取組み状況（詳細は2．を参照）

1－3．エネルギーバランス・年間CO2排出量（詳細は2．を参照）

■基準年度におけるCO2排出量

基準年度	CO2排出量※
	t-CO2/年

※電力については各電気事業者の実排出係数を用いて算出

②

1－4．主な課題と対策（詳細は3－1．を参照）

工程名	設備・機器名	課題番号	特に重要と思われる課題	提案番号

1－5．改善提案と受診事業所による実施判断（詳細は3－2．および4．を参照）

以下は、今回のCO2削減ポテンシャル診断において提案された対策の一覧です。

■改善提案のまとめ

運用改善	0 件
部分更新・機能付加	0 件
設備導入	0 件
燃料転換	0 件
電力の低炭素化	0 件

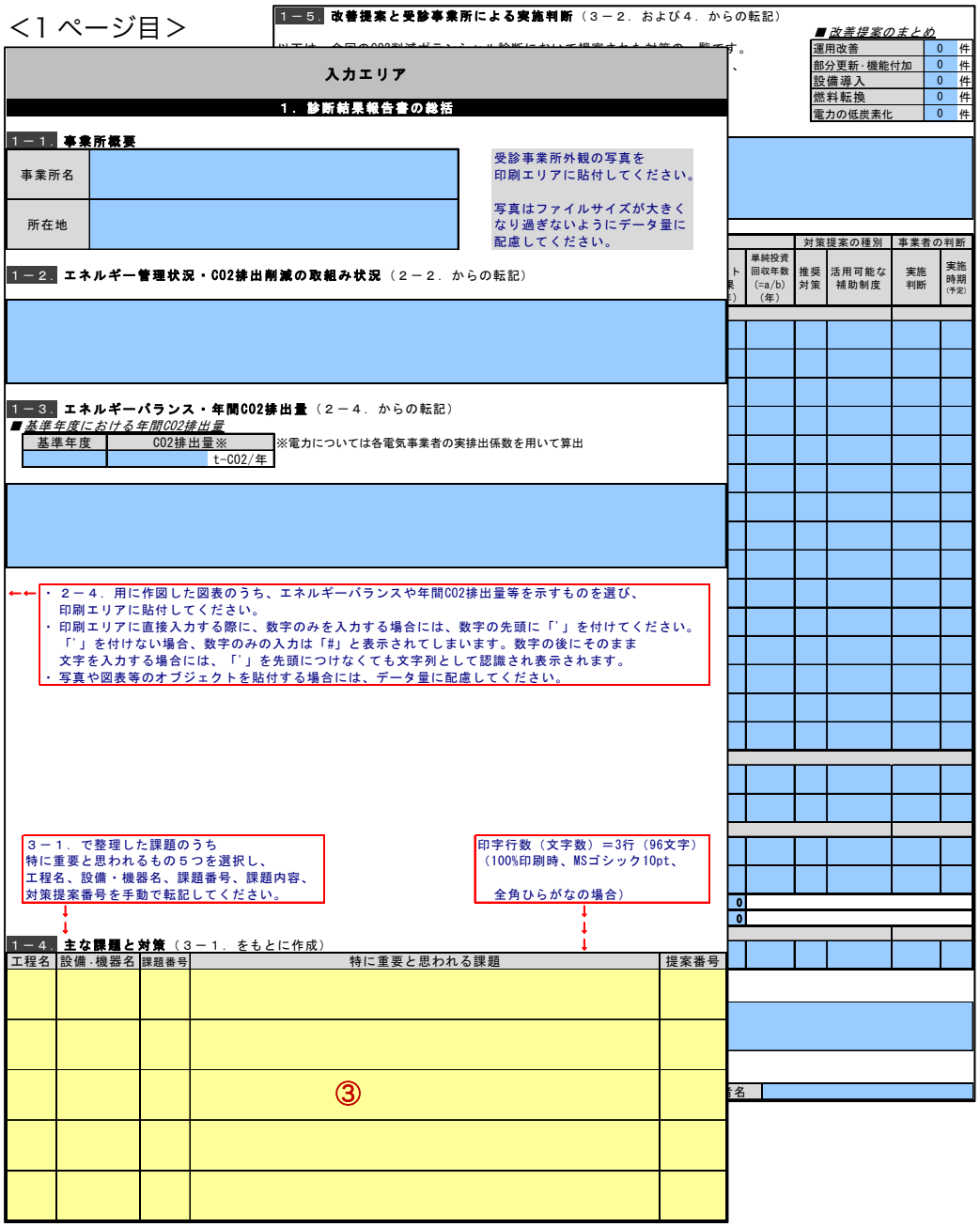
	単純投資回収年数（=a/b）（年）	対策提案の種別 推奨対策	活用可能な補助制度	事業者の判断 実施判断	実施時期（予定）

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

※入力エリアの青色セルには、手順Ⅰ～手順Ⅵで入力したシートから自動転記されている。空欄があった場合には関連するシートを確認すること。

＜1 ページ目＞

＜2 ページ目＞（入力箇所なし）



入力エリア

1．診断結果報告書の総括

1－1．事業所概要

事業所名	
所在地	

受診事業所外観の写真を印刷エリアに貼付してください。

写真はファイルサイズが大きくなり過ぎないようにデータ量に配慮してください。

1－2．エネルギー管理状況・CO2排出削減の取組み状況（2－2．からの転記）

1－3．エネルギーバランス・年間CO2排出量（2－4．からの転記）

■基準年度における年間CO2排出量

基準年度	CO2排出量※
	t-CO2/年

※電力については各電気事業者の実排出係数を用いて算出

・2－4．用に作図した図表のうち、エネルギーバランスや年間CO2排出量等を示すものを選び、印刷エリアに貼付してください。
・印刷エリアに直接入力する際に、数字のみを入力する場合には、数字の先頭に「'」を付けてください。「'」を付けない場合、数字のみの入力は「#」と表示されてしまいます。数字の後にそのまま文字を入力する場合には、「'」を先頭につけなくても文字列として認識され表示されます。
・写真や図表等のオブジェクトを貼付する場合には、データ量に配慮してください。

3－1．で整理した課題のうち特に重要と思われるもの5つを選択し、工程名、設備・機器名、課題番号、課題内容、対策提案番号を手動で転記してください。

印字行数（文字数）＝3行（96文字）（100%印刷時、MSゴシック10pt、全角ひらがなの場合）

1－4．主な課題と対策（3－1．をもとに作成）

工程名	設備・機器名	課題番号	特に重要と思われる課題	提案番号
			③	

1－5．改善提案と受診事業所による実施判断（3－2．および4．からの転記）

■改善提案のまとめ

運用改善	0	件
部分更新・機能付加	0	件
設備導入	0	件
燃料転換	0	件
電力の低炭素化	0	件

単純投資回収年数(=a/b)（年）	対策提案の種別 推奨対策	対策提案の種別 活用可能な補助制度	事業者の判断 実施判断	事業者の判断 実施時期（予定）